



人工股・膝関節置換術は、手術以外の治療(薬剤など)が無効な股関節や膝の著しい疼痛と機能障害を、関節を人工関節で置き換えることで著しく改善します。痛みをほとんど取り歩行と日常動作を著しく改善します。外科系で最も成功率が高い手術の一つであるとの報告がいくつもあります。典型的な患者さんを紹介します。

図1Aは75歳男性の術前のレントゲンですが、両側股関節の著しい破壊を生じています。歩行不能で車いすの生活で、じっとしていても痛く、「人生せいせい願った!」と語っていました。図1Bは両側人工股関節置換術後のレントゲンですが、痛みなく歩けるようになり、家事買物もでき自立して生活できるようになり、旅行にも行け、好きな相撲の見物に国技館にも行ってきました。「人生すっかりバラ色になった」とのことです。

図2Aは78歳女性の術前の立って撮った右膝のレントゲン正面像です。本来あるべき内側の関節軟骨の隙間が消失し(図矢印)、骨同士が接触してい

# 人工股・膝関節置換術は

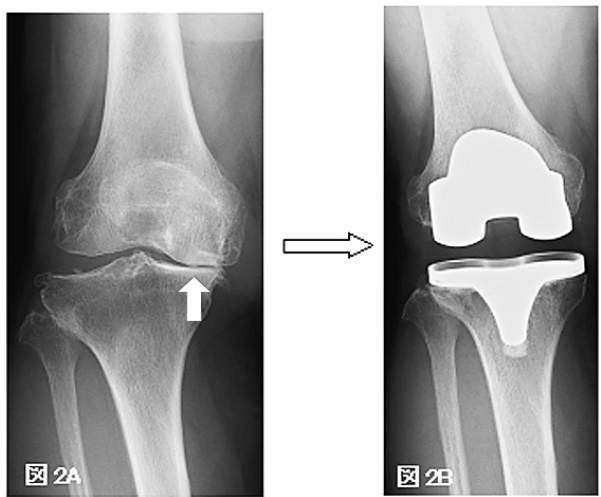
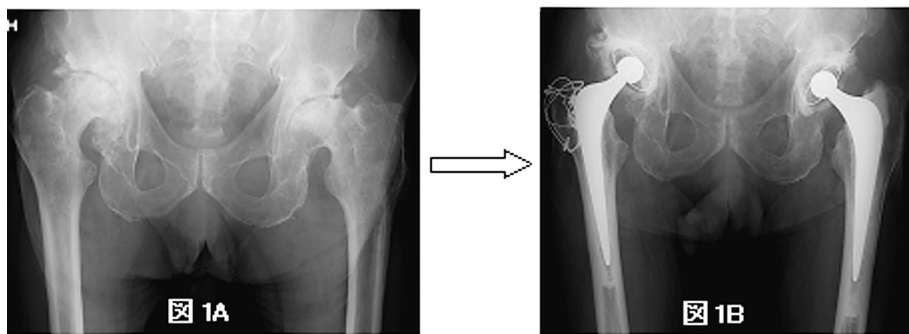
- 1) 強い痛みを取り除き歩行や日常動作を改善します
- 2) 外科系で最も成功率が高い手術の1つとされています
- 3) 脳卒中、心筋梗塞、心不全のリスクも半減します

## 諏訪赤十字病院

病院長補佐兼 第一整形外科部長 小林 千益



ます。関節軟骨は神経がなくすべしとして磨れ合っても痛みを生じませんが、神経の入っている骨同士が磨れ合い削れ著しい痛みを生じていました。膝痛が強くとイレに行くのも壁や手すりにつかまってやっとで、外出は困難でした。図2Bは人工膝関節置換術後のレントゲンですが、人工物同士の磨れ合いとなり、痛みが消失し膝の伸展と屈曲も改善しました。痛みがなく杖なしで数km歩け、家事買物に支障なく、旅行もできるようにな



り、お遍路さんにも行ってきました。好きな家庭菜園もし、ゴルフエンジョイを楽しんでいます。

2013年の英国医学雑誌(BMJ) 347:f6176, 2013)に、人工股・膝関節置換術が、脳卒中、心筋梗塞、心不全やそれらによる死亡とまとめて心血管イベントと呼んでいまる)のリスクを半減することが報告され、日本の医学系の新聞や雑誌で紹介された話題となりました。カナダのトロント大学の研究で、55歳以上で中高度の変形性股・膝関節症のある方を、病状等でマッチさせて、人工股・膝関節置換術を行った患者さんを行わなかった患者さんを比較しました。人工股関節置換術については62組、人工膝関節置換術については91組、両者で153組を、7年間追跡調査を行い、比較

検討しました。その結果、人工関節置換術を行わなかった人と比べ、心血管系イベントのリスクが、人工股関節置換術では61%に、人工膝関節置換術では46%に、両者を合わせた56%に低下していました。近年、変形性股・膝関節症による痛みのために、歩行や日常動作が障害され、心血管系イベントが増加することが報告されています。このトロント大学からの報告は、人工股・膝関節置換術を行うことで、そのリスクを半減でき

ることを明らかにしたものです。その機序については、ウォーキング等による運動による心血管系イベントの予防効果は実証済みであり、人工関節置換術で歩行や身体的活動が著しく改善されること第1で、痛みと精神的ストレスの除去が第2で、さらに痛み止め(消炎鎮痛剤)が不要になることを第3に上げています。高齢者が消炎鎮痛剤を長期間使用することには、胃・十二指腸潰瘍ばかりでなく、腎臓の機能を低下させたり、血管をいため心血管系イベントの危険性を高める副作用があります。老年医学会の指針では、高齢者に消炎鎮痛剤を慢性的に使用しないようになっていきます。股関節や膝の痛みで長期間痛み止めを必要としている患者さんには、人工関節置換術を行うことを検討しています。

次回(2月16日)に掲載予定

## 日赤通信

平成27年1月19日長野日報掲載(許可転載)

〜新健康よもやま話より〜